

## 第12回 軽金属女性未来賞

軽金属女性未来賞は、軽金属分野において学術研究または技術開発に顕著な功績をあげ、将来の活躍が期待される女性研究者または女性技術者に贈る。



芹澤 愛 君  
(芝浦工業大学)

芹澤 愛君は、これまでにアルミニウムならびにマグネシウムの組織制御や機能向上に関する研究に携わり、新たな知見を数多く示してきた。特に、Al-Mg-Si合金の時効析出初期に形成するナノクラスタの原子プローブ解析による研究成果は国内外の研究者から注目されている。また、近年ではアルミニウム合金の高強度・高耐食化技術として、時効析出と表面処理を利用した技術を提案し、構造材料としてのアルミニウム等の優位性を積極的に発信し続けている。

一方、同君は、社会活動にも積極的に力を入れている。軽金属学会では、国際交流委員会委員、関東支部運営委員会委員、大会実行委員等で幅広く活動し、特に大会実行委員では、大会運営とともに女性会員の会の世話役として尽力し女性研究者の参加しやすい環境を整えてきた。また、女性研究者に対するキャリアプラン設計を趣旨とした講演会において講師を務めるなど、女性会員の一層の活躍を目指した働きかけの中核的な役割を果たしている。

以上のように、同君はアルミニウムならびにマグネシウムの組織制御や機能向上に関する学術的研究に多大な業績をあげており、今後さらなる発展と活躍が期待される。また、軽金属材料の女性研究者のロールモデルとなり得る人物と期待される。